

(5) 期待される効果

「南富良野町かわまちづくり」の整備により、MIZBEステーションの利活用施設としての機能を充実させ、観光・歴史・文化・まちづくりに関する効果的な情報発信を行うことにより、MIZBEステーションの認知度・知名度向上、MIZBEステーションを中心に「かわ」と「まち」が一体となった賑わいの創出を図ります。



ラフティング



犬ぞり体験



道の駅「南ふらの」複合型商業施設



出典: ジャパンエコトラックHP (<https://www.japanecotrack.net/>)

5.3 事業の進捗の見込み

5.3.1 今後の事業スケジュール

南富良野町かわまちづくりについては、令和6年度に事業着手し、令和15年度に完了する予定です。直轄事業費約2.6億円※のうち、令和7年度末時点で約0.7億円の事業を実施しており、事業の進捗率は約26%です。

※その他費用として、自治体事業費約0.1億円を含め、総事業費は約2.7億円を予定しています。

令和8年度以降の事業

- ・国：「水辺整備（親水護岸、高水敷整正、管理用通路）」等
- ・南富良野町：「利活用施設整備」「看板整備」等

上記事業については引き続き、南富良野町をはじめ地域の方々や関係機関と連携・調整を図りながら計画的に実施します。

表 事業の進捗状況

実施者	工 種	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
河川管理者	水辺整備										
	モニタリング						■	■	■	■	■
南富良野町	利活用施設整備										
	看板整備										

■ 工事等期間 ■ ■ ■ モニタリング期間

6. 江別市かわまちづくりの概要

6.1 事業を巡る社会経済情勢の変化

6.1.1 河川環境を取り巻く状況

(1) 事業実施地域の概要

江別市は、石狩平野の中央に位置し、全般的に平坦な地形で豊かな自然環境に恵まれ、道央圏で札幌市に次ぐ規模の都市です。

江別市かわまちづくり整備箇所である江別市内の千歳川合流地点周辺は、明治11年の屯田兵の入植以降、千歳川に面した江別港と月形町を往来する外輪船により石狩川の舟運の中心として栄え、当時の隆盛を物語る外輪船(旧岡田倉庫)等の歴史的建造物が残っています。



主要流入河川：石狩川
沿河市町村人口（江別市）：約12万人
※出典：住民基本台帳（令和7年1月1日現在）



図 江別市かわまちづくり対象地域及び周辺状況

(2) 地域の現状と課題

江別市では、「えべつ未来づくりビジョン(第6次江別市総合計画)」に基づき、地域資源を活かし江別観光の魅力をさらに高めるとともに、商店街の活性化等を推進し、観光による産業の振興に努めています。また、「江別市都市計画マスタープラン2014」における江別地域のまちづくり構想に基づき、江別駅周辺の歴史性や界索性、河川環境等の特性を活かした地域の魅力向上を目指し、地区の核にふさわしい土地利用を市民協働で検討することや、千歳川の総合的な治水事業を推進するため、治水施設の整備とまちづくりの連携が必要となっています。



図「江別市都市計画マスタープラン2014」におけるまちづくり構想

(3) 事業箇所周辺地域の現状と課題

石狩川と千歳川が合流する事業箇所周辺地域には、明治時代に始まった北海道の開拓において主要な交通手段だった鉄道と舟運の結節点である江別港がかつて存在し、外輪船(旧岡田倉庫)などの歴史的建造物が残っています。

しかし、江別市街地築堤整備に伴う移設が必要となっており、江別市では令和5年度中の移設を予定しています。

そのため、堤防整備に併せて、外輪船(旧岡田倉庫)の歴史的景観を活かしつつ、水辺とまちを一体的に整備し、交流人口の増加、歴史的経緯を踏まえた水辺の賑わいの創出を行います。



明治44年の江別橋周辺の様子



外輪船(旧岡田倉庫)

6.1.2 河川等の利用状況

当該整備箇所では、春には「こいのぼりフェスティバル」、夏には「えべつ花火」や「石狩川リバーセーリング」等、多くのイベントが開催されています。また、NPO主体で開催された「ミズベのロングマーケット」では、と千歳川沿いで多くの市民がコンサート・雑貨販売等を楽しんでいます。

整備箇所に隣接する江別河川防災ステーションでは、江別の観光の紹介及び物産の販売を行っており、年間約11.3万人(令和5年度)が来場しています。

他にも、市民や地元のNPO等と河川管理者が連携しながら、市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育に取り組んでいます。



こいのぼりフェスティバル



えべつ花火



秋の味覚まつり
(江別河川防災ステーション)



石狩川リバーセーリング



ミズベのロングマーケット

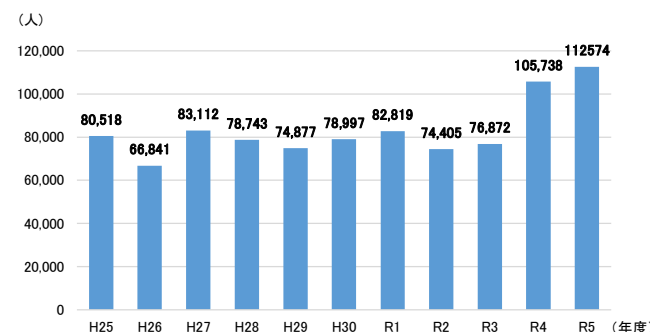


図 江別防災ステーションの入館者数(H25～)

6.1.3 地域開発の状況

江別市の令和7年1月1日現在の人口は約12万人であり、近年、大きな変化はありません。

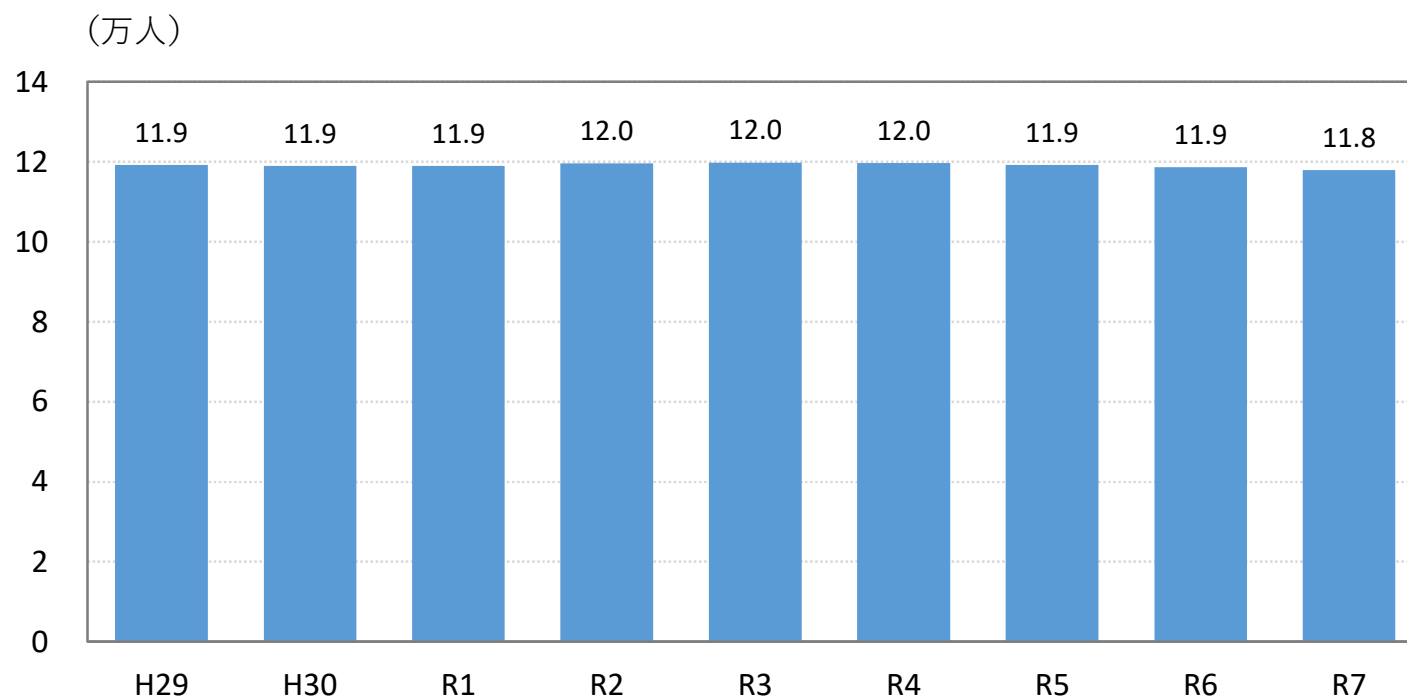


図 江別市における人口の推移

資料:住民基本台帳(各年1月1日)

6. 1. 4 地域の協力体制

令和2年11月、江別市・学識経験者・地元関係者による「江別市かわまちづくり協議会」が設立され、外輪船周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組の協議が進められました。

また、令和3年1月からは、江別市と河川管理者、地域住民による「江別市かわまちづくり勉強会」を開催し、より具体的な事業計画の策定と実践に向けた議論・検討等を行っています。

今後、河川占用許可準則第22条(都市・再生等利用区域の指定)に基づく営利活動を行う民間事業者の参入が見込まれており、事業を遂行・運営する実行組織の発足を目指します。

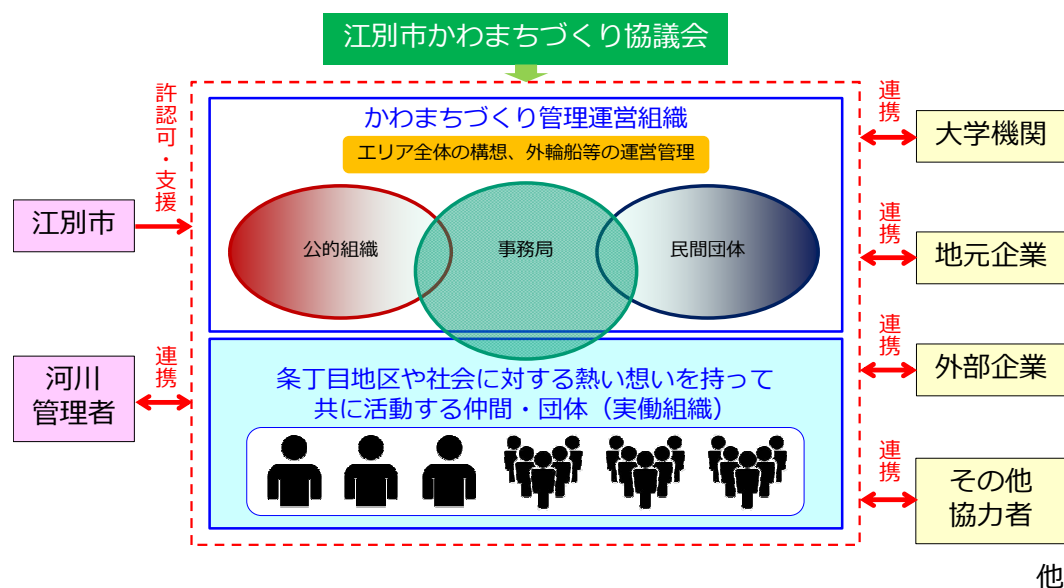


図 江別市かわまちづくり管理・運営組織の実施体制(案)



江別市かわまちづくり勉強会

6.1.5 関連事業との整合

江別市では、「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成27年策定)に基づき、観光振興による交流人口の増加と経済活性化を目指しています。具体的な施策として、石狩川や歴史的建造物などの地域資源を観光振興への有効活用とすること等を掲げています。

令和元年8月に設立された「さっぽろ連携中枢都市圏観光協議会」では、札幌市及び近隣の11市町村が連携し、観光客を増加させ、圏域全体の観光消費を増大させるために、戦略的な共同プロモーション事業等を実施しており、当該事業箇所を拠点として活用することを検討しています。

上記の事業と連携することで、賑わいのある水辺空間の利活用の推進を進めます。

【政策の企画・実行に当たっての基本方針】

5 地域資源や地域特性を生かした取り組み

江別市は、大消費地札幌市に隣接し、交通アクセスの優位性があります。

また、市内には4つの大学や様々な研究機関が立地しており、知的資源を生かした産学官連携や学生の力を生かしたまちづくりに積極的に取り組んでいます。

さらに、石狩川や野幌森林公園などの自然環境や豊かな農畜産物にも恵まれています。

こうした地域資源や立地性の強みを生かして、江別市ならではの「まち・ひと・しごと創生」の施策を進めてまいります。

【地域資源の活用による観光の振興】

石狩川や原始林、地場産品、食と農、歴史的建造物などの地域資源を観光資源としてさらなる有効活用を図るとともに、新たな観光拠点を整備するなど、大都市である札幌市に隣接している地の利を最大限に生かした江別市ならではの観光を推進します。

具体的な事業	重要業績評価指標(KPI)
地域資源の観光への有効活用 ・豊かな自然や既存の施設の利活用、食と農の観光化や、市民や企業等による観光資源の発掘・創出・魅力向上を支援することにより、地域資源を生かした観光を推進。	観光案内所来所数/ 130,000人(H31年度) ※5年間累計
観光資源のパッケージ化 ・顧客の目的やニーズに合った様々な地域資源を組み合わせ、江別市ならではの観光資源のパッケージ化や観光ルート化による相乗効果で、観光の魅力を高めるとともに地域振興も図る。	観光協会会員数/ 180会員(H26年度) →200会員(H31年度)

「さっぽろ連携中枢都市圏」とは、より魅力的なまちづくりを目指して、札幌市と近隣11市町村によって形成。それぞれの「まち」の特性を活かし、綿密な連携と役割分担のもと、暮らしや経済に役立つ様々なとりくみを実施。

【戦略的な観光施策】

連携事業名	共同プロモーションや観光資源の活用等の推進
事業概要	圏域における観光客を増加させ、圏域全体の観光消費を増大させるため、圏域内市町村で構成する協議会において、観光振興に関する取組を企画・立案し、ツーリズム連携等の連略的な共同プロモーション事業等を実施する。
連携市町村	全市町村(=札幌市、小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町、長沼町)
具体的項目	共同プロモーション事業等の実施
関連SDGs	 

6.2 事業概要及び進捗状況

(1) 事業の河川整備計画等の位置付け

当該整備については、「石狩川水系千歳川河川整備計画」(平成17年4月策定、平成27年3月変更)において、「河川空間の利用に関する目標」として、『河川空間は、人々が川や水辺とふれあい親しめる場として利用されるよう関係機関と連携し、その整備に努める。』と位置付けられています。

(2) 事業の経緯

江別市・学識経験者・地元関係者で構成される「江別市かわまちづくり協議会」において事業計画の策定を行い、「かわまちづくり支援制度」を活用した「江別市かわまちづくり」として国土交通省に申請し、令和4年8月9日に登録されました。

(3) 事業の目的

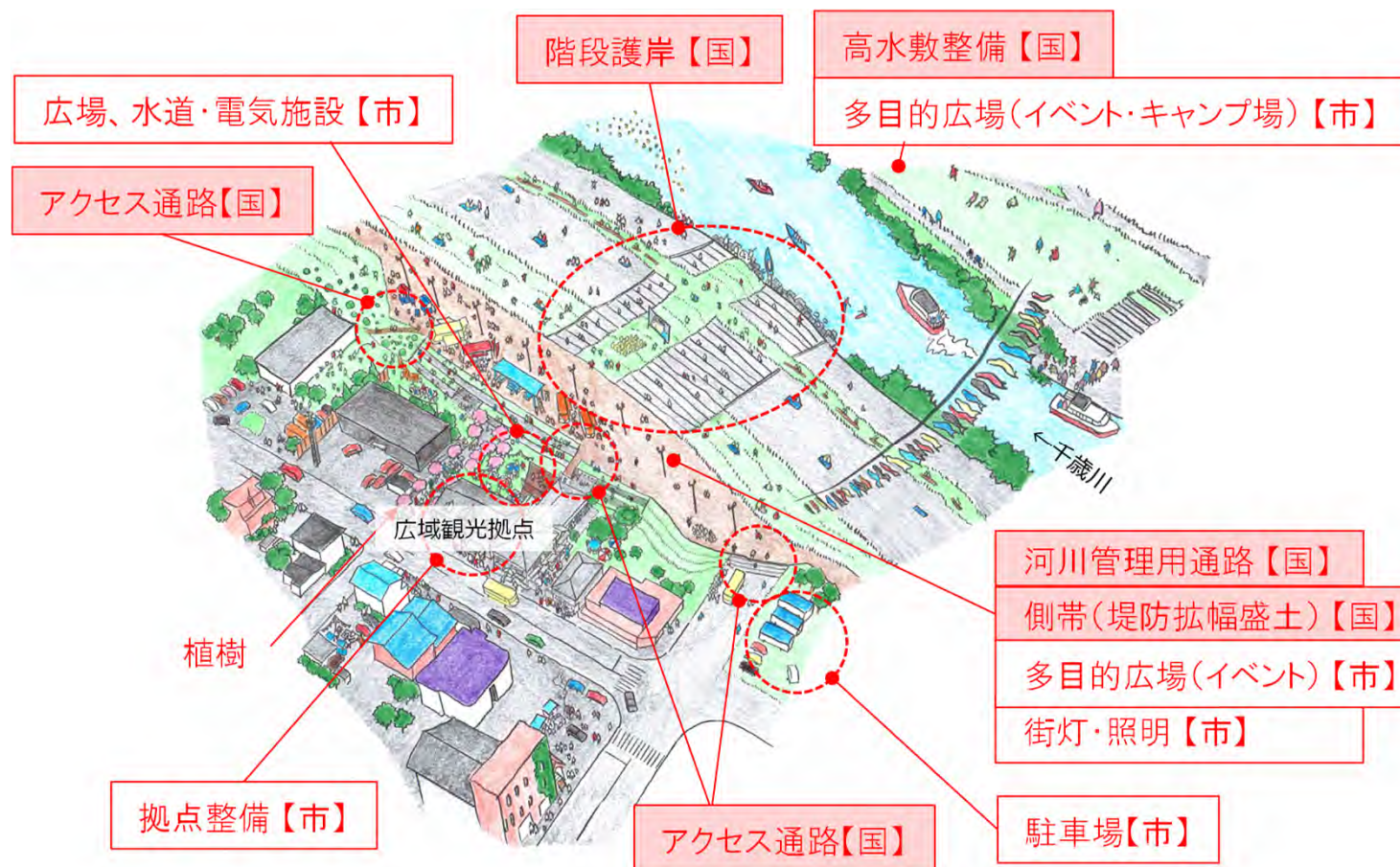
江別市かわまちづくりは、外輪船(旧岡田倉庫群)の歴史的景観を活かしつつ、高水敷整正、側帯、管理用通路等の水辺整備を行うことで、市民が日常的に水辺を利用し、水辺とまちをつなぐ人の流れや民間活力を取り入れ、河川空間の賑わいを創出することを目指します。



江別市かわまちづくり整備箇所

(4) 整備の内容

国は、高水敷整正、側帯、管理用通路、アクセス通路、階段護岸整備を行う。
江別市は、拠点整備、広場、水道・電気施設、多目的広場、街灯・照明、駐車場の整備を行う。



多目的広場活用イメージ



階段護岸整備イメージ



側帯活用のイメージ

（５）期待される効果

外輪船(旧岡田倉庫)は、江別市の芸術・文化の発信を目的としたイベントスペースとして活用されており、最近では海外アーティストの展示会やプロジェクションマッピング等が行われています。

近年、周辺では住民の転入や保育施設の開設等が見られはじめており、整備により日常的な散策や水辺利用が見込まれています。冬場はファットバイク・クロスカントリースキーコースを設定することで、周辺施設と一体となった水辺空間が創出され、地域の魅力向上と活性化に寄与します。

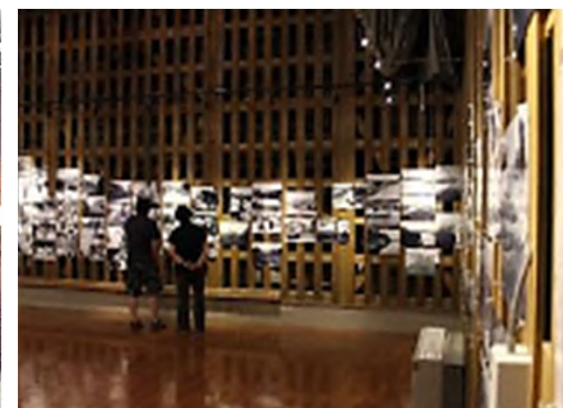
また、同時に江別市の観光誘客を推進することで、歴史的経緯を踏まえた水辺の賑わいの創出、水辺を活用したイベントによる市内外からの広域的な観光誘客、交流人口の増加が期待されます。



こいのぼりフェスティバル
(5月上旬)



エキテラ2022 江別かわまち
(アイスクャンドル)



外輪船アート展

6.3 事業の進捗の見込み

6.3.1 今後の事業スケジュール

江別市かわまちづくりについては、令和5年度に事業着手し、令和14年度に完了する予定です。直轄事業費約2.6億円※のうち、令和7年度末時点で約1.2億円の事業を実施しており、事業の進捗率は約47%です。

※その他費用として、自治体事業費約3.5億円を含め、総事業費は約6.1億円を予定しています。

令和8年度以降の事業

- ・国：「水辺整備(高水敷整正、側帯、管理用通路、アクセス通路、階段護岸)」等
- ・江別市：「拠点整備(広場、水道・電気施設、多目的広場、街灯・照明、駐車場整備)」

上記事業については引き続き、砂川市をはじめ地域の方々や関係機関と連携・調整を図りながら計画的に実施します。

表 事業の進捗状況

実施者	工 種	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
河川管理者	水辺整備										
	モニタリング						■	■	■	■	■
江別市	拠点整備										
	かわまちづくり協議会・勉強会										

■ 工事等期間 ■ ■ ■ モニタリング期間

7. 砂川地区かわまちづくりの概要

7.1 事業を巡る社会経済情勢の変化

7.1.1 河川環境を取り巻く状況

(1) 事業実施地域の概要

砂川市は、豊かな自然に恵まれ、交通アクセスも充実しており、高速道路に直結する「道立公園 北海道こどもの国」、「砂川ハイウェイオアシス館」などの観光レクリエーション施設が立地し、市内外から多くの人々が訪れる広域的なレクリエーション拠点となっています。

事業箇所である砂川遊水地は、洪水時には石狩川の洪水調節の役割を担っており、平常時は、サイクリング、ヨット、釣りなど親水レクリエーションの場となっています。



主要流入河川：石狩川
沿川市町村人口（砂川市）：約1.5万人
※出典：住民基本台帳
（令和7年1月1日現在）

砂川地区かわまちづくり事業箇所



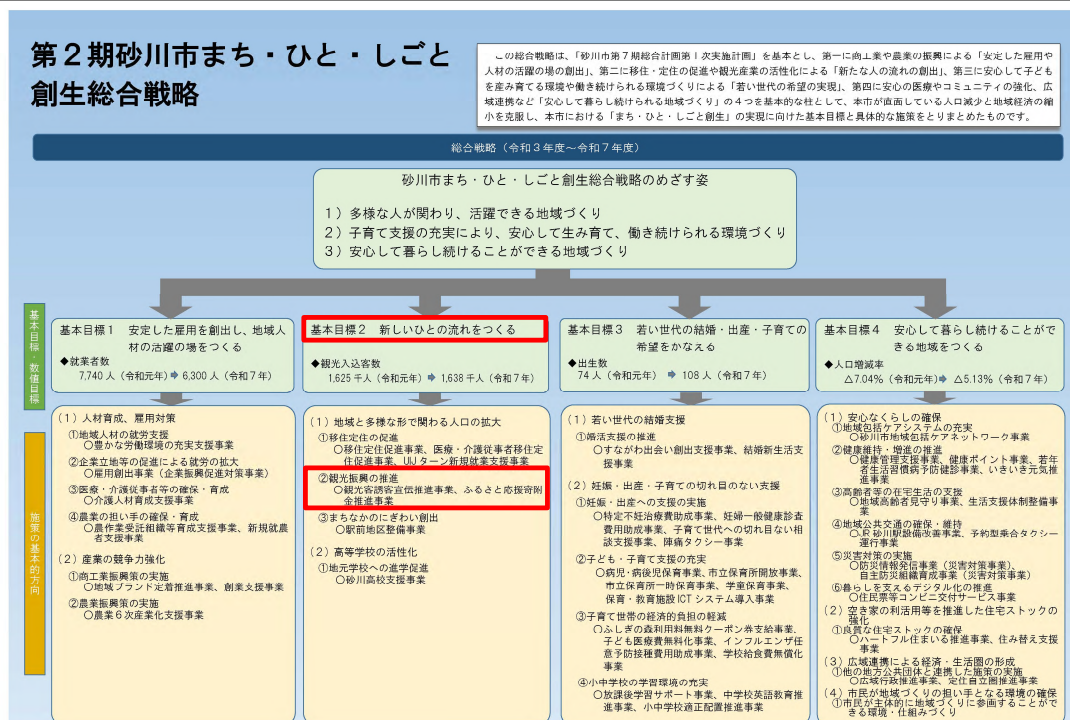
図 砂川地区かわまちづくり対象地域及び周辺状況

※「国土地理院地図」
（国土地理院Webサイト）を加工して作成

(2) 地域の現状と課題

砂川市では、直面する人口減少と地域経済の縮小を克服することが課題となっており、「第2期砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(令和3年3月策定、令和5年7月計画変更)に基づき、「新しい人の流れをつくる」などの4つの基本目標を設定し、「観光振興の推進」等の具体的な取組を進めています。

砂川オアシスパークは「砂川市緑の基本計画」(令和4年3月策定)において、中空知圏域における広域レクリエーションの拠点であるとともに、広大な石狩川の河川空間を活用した多種多様なレクリエーションニーズに対応できる緑地であることから、その機能の充実を図ることとされています。また、砂川市では中小企業地域資源活用促進法による「ふるさと名物」に『すながわスイーツ』を位置づけており、砂川のお菓子の魅力と様々な地域資源の活用でまちのイメージアップと交流人口の創出を図る計画を策定し、平成29年5月に地域再生計画として認定されています。



出典：「第2期砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」概要版（令和3年3月策定、令和5年7月計画変更）